

平成 30 年度 大阪市英語力調査（「英検 IBA」）の結果の概要と今後の取組について 大阪市教育委員会

■ 調査内容

学年	英検級レベル	テスト内容		満点 スコア
		筆記問題	リスニング問題	
3年	英検 2 級～5 級レベル	35 題	30 題	1100 点
2年	英検準 2 級～5 級レベル	35 題	30 題	1000 点
1年	英検 3 級～5 級レベル	35 題	25 題	800 点

■ 調査結果

【「語い・熟語・文法」「読解」「リスニング」の値は大阪市の分野別平均正答率(%)】

3年	平均スコア(点/1100点)	語い・熟語・文法	読 解	リスニング	英検 3 級レベル以上の割合 (%)
		752.4 点	62.6%	52.2%	53.2%
2年	平均スコア(点/1000点)	語い・熟語・文法	読 解	リスニング	英検 4 級レベル以上の割合 (%)
		687.3 点	71.2%	58.5%	65.0%
1年	平均スコア(点/800点)	語い・熟語・文法	読 解	リスニング	英検 5 級レベル以上の割合 (%)
		511.3 点	56.5%	53.2%	63.3%

■ 結果の概要と今後の取組について

学年	結果の概要と今後の取組について
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・英検 3 級レベル以上の割合が 50%を超え、大阪市教育振興基本計画（平成 29 年 3 月改訂：平成 29（2017）年度～2020 年度）に示す目標とともに、国の第 3 期教育振興基本計画（平成 30（2018）年度～2020 年度）に示す目標「中学校卒業段階：CEFR A1 レベル*相当以上を達成した割合 50%」を達成した。 ・「読解」「リスニング」の 2 分野において平均正答率が 50%を上回り、「語い・熟語・文法」においては 60%を上回った。「読解」「リスニング」の力をさらに向上させるために、C-NET の活用や教員の授業内における英語使用をさらに増やすことで、リスニング力を向上させ、日々の授業において教科書本文以外の 100 語以上のまとまった量の英文を読む取組を継続的に帯活動等で確保していく必要がある。 <p>*CEFR: 外国語の学習・教授・評価のためのヨーロッパ共通参照枠、外国語の熟達度の判断基準。 (A1 は英検に換算すると 3 級程度)</p>
2年	<ul style="list-style-type: none"> ・英検 4 級レベル以上の割合が 65%を超えた。 ・「語い・熟語・文法」「リスニング」の 2 分野において平均正答率が 65%を超えた。「読解」についても 55%を超えた。 ・読解力のさらなる向上にむけて、教科書本文以外の 50 語以上のまとまった量の英文を読む取組を継続的に帯活動等で確保していく必要がある。
1年	<ul style="list-style-type: none"> ・英検 5 級レベル以上の割合が 75%を超えた。 ・「リスニング」の平均正答率が 60%を超えた。短時間学習を活用した「小学校低学年からの英語教育」による成果、また中学校教員や C-NET が授業内で英語使用の機会を多く確保した成果が伺える。 ・調査の実施時期が 10 月下旬から 11 月上旬であり、1 年の生徒にとって、ある程度まとまった量の英文を読むことに慣れていない時期であったが、「読解」の平均正答率は 50%を超えた。読解力のさらなる向上に向けて基本的な語いを増やすことが重要である。今後も引き続き、日々の授業の中で、チャンツや歌、絵本を活用した帯活動等を工夫し、小学校の定着事項を体系的に深化させ、より多くの単語の音・文字・意味をインプットする必要がある。